

奈良県道路整備委員会（第11回）議事録

日時：令和6年5月20日（月）

15時00分～16時30分

場所：エルトピア奈良（奈良労働会館）

大会議室A

■委員からの主な意見

【山田委員長】

- ・土地収用制度の「積極的」な活用という県民からは強い言葉に思える。計画に記載する際は、もう少し丁寧な意味合いを記載した方が良いと思う。

【肥後委員】

- ・能登半島の地震においては、道路の重要性が再認識された。事業化された事業は積極的に整備を進めていくべきだと思う。
- ・事業化された事業が進まないのは、健全とは言えないと思うため、土地収用制度を活用して進めていくべきと思う。
- ・一方で、都道府県別の道路整備率の順位だけにこだわる必要はないと思う。

【伊藤委員】

- ・能登半島地震を踏まえて、道路整備のあり方をはじめとした、新たな制度等も動き出すと思うので、適宜柔軟に取り入れていけるような記載を検討して頂きたい。

【西堀委員】

- ・土地収用制度について、円滑に運用するための取組を講じていくとともに、道路整備を積極的に推進していくということで、道路整備率を上げていくことが前面に出ている。

【清水（陽）委員】

- ・事業工区ごとの用地進捗状況の公表イメージについて、優先順位を考える上で、いつ頃の供用開始を目指しているのかを明示してもよいと思う。
- ・事業期間が長くなっている事業工区は、収用の対象になりうるということがわかるように表現する工夫が必要と思う。

【東田委員】

- ・土地収用制度を積極的に活用するにあたって、まずは任意交渉をしっかりと行っていくことも必要と考える。

- 文化財調査を進めていくためには、まとまった事業用地を確保してからではなく、用地取得した土地から少しずつでも調査を始めていくことで、他事業との順番待ちになるということを少しでも回避できるのではないかと思う。
- 道路整備を加速するためには、予算もしっかり確保していく必要がある。

【松井委員】

- ゾーン 30 プラスについて、県内で1カ所整備済、2カ所が今年度整備完了予定。ランプ等の設置箇所の効果検証の結果、速度抑制効果が認められ、安全対策として有効だと考えている。
- バイパス道路等の整備時における交差点の集約化は、交差点数の減少等による安全性の向上や交通の円滑化が図れることから、非常に効果的な対策だと考えている。

【森島委員】

- ゴールデンウィークの奈良中心市街地は大変混雑しており、通常30分程度で周回する外環状線のバスが2時間を超えていた。
- 普段から、奈良と西大寺間の道路が非常に渋滞している。これは、料金抵抗に伴う名阪国道からの迂回交通が多いのではないかと考えている。最新技術により、渋滞の原因を究明してもらいたい。
- 奈良県民の道路に対する期待は大きいと感じている。本計画が、その期待に応えられるように進めてもらいたい。

【本日の議論のまとめ（委員長まとめ）】

- 骨子については、本日議論になかったので、この案で進めていくことで良い。
- 計画の書き方・伝え方・示し方については、本議論を踏まえ、もう少し工夫をしてもらいたい。